

2024 (令和 6) 年度 事業計画

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

世の流れに合わせ、アフターコロナの形態で学会運営を進めている。今年度も、オンライン会議の功罪を踏まえた上で効果的に取り入れながら、各種会合のオンライン、ハイブリッド、現地開催を進める。研究会やセミナーでは、話題性のあるテーマを扱う等、会員にとって魅力ある学会となるよう努めていく。一方で、学会の財政状況については、新たな取り組みを模索しつつ、赤字を脱却するための財務体制改善に取り組む。

本年度は特に下記の 7 点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、引き続き社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 新たな特任理事体制による会員サービス向上と関連学協会との連携強化
2. 持続的な学会運営のための中長期的財務計画の検討
3. 学会活動の周知強化と会員増に向けた MSJ 講習会の企画、並びに実施
4. 新規タスクフォースによる学会コンテンツの電子化、並びに再販活動
5. 選考体制・過程の見直しによる表彰選考プロセスの一層の公平化・透明化
6. HP や Facebook の活用による本学会の魅力会員・非会員に伝える広報活動の強化
7. 国際会議 IcAUMS2025 の確実な企画準備

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 第 47 回学術講演会と同様に、参加者来場形式での開催を基本とする。
- ・ 2024 年 09 月 24 日(火)から 09 月 27 日(金)まで、秋田大学 手形キャンパス(秋田県秋田市)において第 48 回日本磁気学会学術講演会を開催する。シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えて、ポスターセッションを併設する予定である。
- ・ フェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第 48 回学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第 48 回 学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇

料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 48 回 学術講演会の概要集についても引き続きウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行うことができるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッション併設により、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場を提供して、学術講演会の価値向上に努める。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を引き続き開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 6 回を目安として定期的で開催する。開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題
第 248 回	2024 年 5 月	強磁場応用
第 249 回	2024 年 7 月	未定
第 250 回	2024 年 9 月	未定
第 251 回	2024 年 11 月	未定
第 252 回	2025 年 1 月	未定
第 253 回	2025 年 3 月	未定

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」および「日本磁気学会 サマースクール」を、8 月初旬に開催する。電気学会など他学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。
- ・ 主に小学生を対象とした、磁気に関する啓蒙的講座(公開講演会)を 1 回程度開催する。
- ・ 当学会の活動を広く知ってもらい入会を促すことに主眼を置いた「MSJ講習会」を年 2 回程度実施する。
- ・ 開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。

1.4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。
- ・ 研究会への参加者を増やすための取り組みとして、研究会開催案内専用のメーリングリストを設け、運用を開始する。

1.5 岩崎コンファレンス

- ・ 第9回岩崎コンファレンスを、2024年5月17日18日の日程で連合会館(御茶ノ水)にて、「量子情報と磁気技術の織り成す未来(仮)」をテーマに開催する。大量データ処理を可能とする量子情報技術が注目を集め、2023年4月に内閣府科学技術・イノベーション推進事務局より量子未来産業創出戦略の具体的な指針が示されたところであるが、実現のためには磁気記録と量子情報、また、ハードとソフトのシームレスな協働作業が求められる。今回の岩崎コンファレンスは、量子情報技術と切り離せない磁性材料・デバイスとして、サイバー空間を司るサーバ向け大容量ハードディスク、量子情報端末の各種技術、量子計算を実現する回路、並びに関連技術について、分野を代表する講師の先生方より最先端の研究成果を紹介していただく。3回振りに現地開催形式を主体としつつも、多数参加できるようハイブリッド形式とする。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2.1 学会誌および学会報の発行

- ・ 2024年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.48, No.3(通巻第333号)から Vol.49, No.2(通巻第338号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.19 No.2(通巻第140号)より Vol.20, No.1(通巻第145号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学術講演会での講演に関する論文を集めた「日本磁気学会論文特集号(Transaction of the Magnetism Society of Japan Special Issues)」を Vol.8, No.1(通巻第15号), Vol.8, No.2(通巻第16号)の2回発行する。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2.2 Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ 2020 年度に登録申請を行った SCI の審査に関する照会等に引き続き対応する。
- ・ Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
迅速な論文査読を徹底する。
 - (2) Review 論文の充実
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。
学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
 - (3) 投稿論文の充実
専門研究会からの投稿を募る。
投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。
引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
 - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS および CC BY 4.0 による再利用促進を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 2024 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。ただし、コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、表彰式の開催形態と時期について、総務と企画で検討する。
- ・ 2024 年度より、女性研究者賞(いつくしみ賞)と女性研究者奨励賞(こころざし賞)を新設する。学術界のダイバシティ促進を目的としたものである。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、引き続きフェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ 学術講演会の懇親会では、MSJ 論文奨励賞・学術奨励賞・学生講演賞・女性研究者賞(いつくしみ賞)・女性研究者奨励賞(こころざし賞)の受賞者等を懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。

2019年度にスタートした「IEEE Magnetics Societyの各Japan chapterの代表者」と「MSJの会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を推進する。

- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム、インドネシアと Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2025 の開催等に向けた密な情報交換を行う。更に、欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ IcAUMS2025(2025年4月 沖縄コンベンションセンター)の実行委員会組織を立ち上げた。今後、AUMS や現地の大学教員と連携して、準備活動を円滑に進める。

II 会議

2024(令和 6)年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- ・ 通常総会は 2024 年 6 月 26 日に開催する。2023 年度事業報告および収支決算、2024 年度の事業計画および収支予算、名誉会員推薦などについて、審議および議決する。

2. 理事会

- ・ 2024 年度の理事会は、原則として 6 回開催する。総会への提出議案、各種規定類の改定、学術講演会の実施要項、表彰に係る選考結果、各委員会体制などについて審議を行う。
- ・ 会長のガバナンスのもと、両副会長(運営戦略担当、学術連携担当)を中心としたタスクフォース体制により、広告増を目指した活動、学会出版物の電子化、学会間連携推進等の各種重要施策の実施に向けて取り組む。
- ・ 引き続き特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上と内外の学協会との連携強化を図る。

3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会、名誉会員懇談会、並びに賛助会員懇談会を開催する。
- ・ 顧問会、懇談会において収集した意見について、副会長および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。

III 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化および各委員会の横の連携を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、課題抽出と対策を長期的に進める長期計画を策定し、その議論を通じ各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 2022 年度副会長(学術連携担当)を中心に立ち上げたコンテンツ電子化タスクフォースに基づき、新たに設定した特任理事(学術コンテンツ管理担当)を中心に、学会創立 40 周年記念 DVD、学術講演会概要集、研究会資料等のコンテンツの電子化と販売に向けた取り組みを推進する。
- ・ 副会長(運営戦略担当)をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。大型支出などに備えた定期的な見直しを計画化するため、中-長期計画を策定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会:

- ・ 円滑な学会運営のため、引き続き事務局と拡大定例会を毎月開催して相互の連携を深める。
- ・ 学生講演賞等の選考のあり方を見直し、分野の偏りの是正や審査委員選出プロセスの一層の透明性の向上を図る。
- ・ 名誉会員、並びに賛助会員からの申し入れを学会運営へ積極的に取り入れることにより、学会活動に対する参画を推進すると共に、会員サービス向上にも繋げる。
- ・ 2023 年度、賛助会員からの学術あるいは技術に関する情報提供を受け、学会ホームページ上で会員向けに展開する事業を開始した。2024 年度はより多くの賛助会員の参画を進める。
- ・ 特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上、内外の学協会との連携強化、IcAUMS2025 の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会:

- ・ 財務状況改善に向けた 5 年長期計画案の作成と議論。(5 年で収支ゼロ等目標設定)
 1. 財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出し
 2. 行事予定の計画反映と予算化
- ・ 会費収入増にむけた施策の提言
 1. 年会費見直し(web 充実、印刷費高騰のため)
 2. 新しい磁気技術分野の会員獲得にむけた研究会開拓活動予算の支援

3. 教育施策の内容充実への活動予算の支援
- ・ 財務改善のため収入増に向けた施策の検討と提言
 1. 委員会活動計画の収支向上に向けた提言(収益化、学術講演会会費アップなど)
 2. 各種印刷物の電子化推進(会誌の年4回など)の提言と議論

◎企画委員会:

- ・ 賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・ 需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス分野や生体磁気分野など)に関する初等的入門講座(MSJ講習会)の実施を企画する。
- ・ 専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・ 学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会:

- ・ 学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ論文奨励賞の授与を継続する。
- ・ 迅速な論文査読を徹底する。

◎広報委員会:

- ・ ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ ホームページ上のコンテンツを充実とさせるとともに体裁等の見直しにより各コンテンツへのアクセス性向上を図る。
- ・ メールマガジンを随時発行し、各種研究会の開催情報や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・ 会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。
- ・ 学会パンフレットの改定を行い、配布することで会員・賛助会員の誘致活動を推進する。

◎国際委員会:

- ・ 本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・ 学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。